

週間市場レポート (2020年8月17日~8月21日)

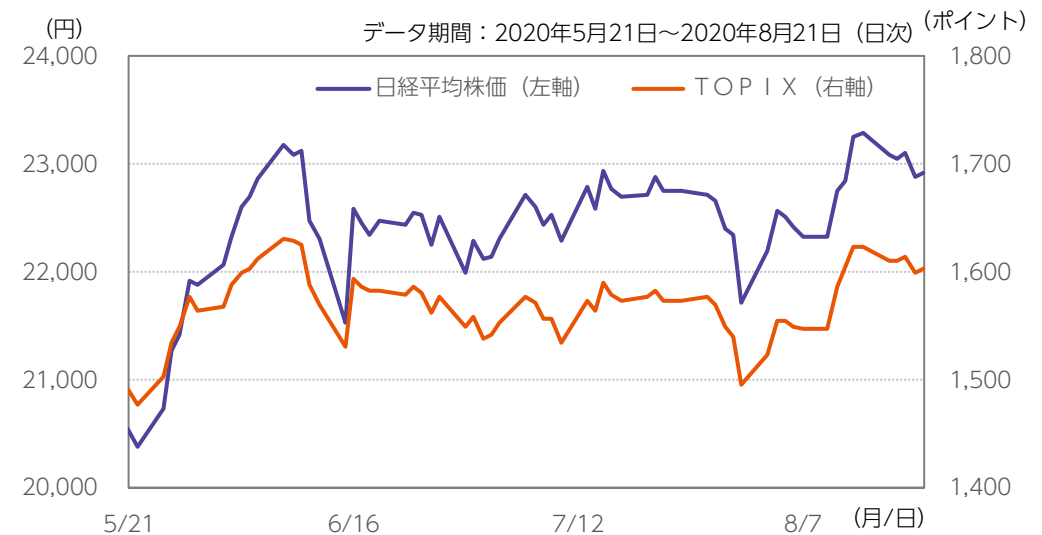
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2020/8/14	先週末 2020/8/21	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		23,289.36	22,920.30	▲ 1.58 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,623.38	1,604.06	▲ 1.19 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		27,931.02	27,930.33	▲ 0.00 ↓
S&P500種指数		3,372.85	3,397.16	0.72 ↑
ユーロ・ストックス50指数		3,305.05	3,259.75	▲ 1.37 ↓
S&P/ASX300指数		6,089.21	6,079.90	▲ 0.15 ↓
上海総合指数		3,360.10	3,380.68	0.61 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)※		881.24	883.19	0.22 ↑
東証REIT指数		1,684.16	1,734.98	3.02 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		683.00	680.42	▲ 0.38 ↓
ASX300 REIT 指数		1,259.80	1,270.40	0.84 ↑
グローバルREIT (除く日本)※		160.73	160.12	▲ 0.38 ↓
日本10年国債 (%)		0.05	0.03	▲ 0.02 ↓
米国10年国債 (%)		0.71	0.63	▲ 0.08 ↓
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.42	▲ 0.51	▲ 0.09 ↓
英国10年国債 (%)		0.24	0.21	▲ 0.04 ↓
ドル/円		106.60	105.80	▲ 0.75 ↓
ユーロ/円		126.24	124.81	▲ 1.13 ↓
英ポンド/円		139.51	138.49	▲ 0.73 ↓
豪ドル/円		76.44	75.77	▲ 0.88 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,200.81	2,198.33	▲ 0.11 ↓
WTI原油先物 (ドル)		42.01	42.34	0.79 ↑
CRB 指数		149.21	149.96	0.50 ↑
アレリアンMLP指数		767.20	732.52	▲ 4.52 ↓

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

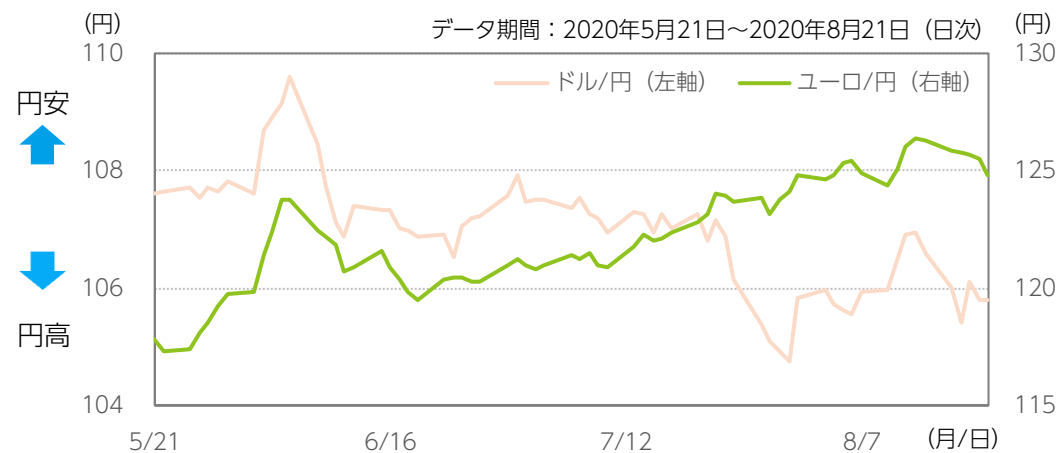
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落となりました。内閣府が公表した2020年4~6月期の実質国内総生産（GDP）成長率が戦後最大の落ち込みとなり、景気回復が遅れるとの見方が広がったことなどから、週初は5営業日ぶりに下落しました。その後は、輸出企業を中心とした企業業績の回復期待を背景に上昇する場面もあったものの、米中対立の激化懸念は根強く、売りが優勢となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

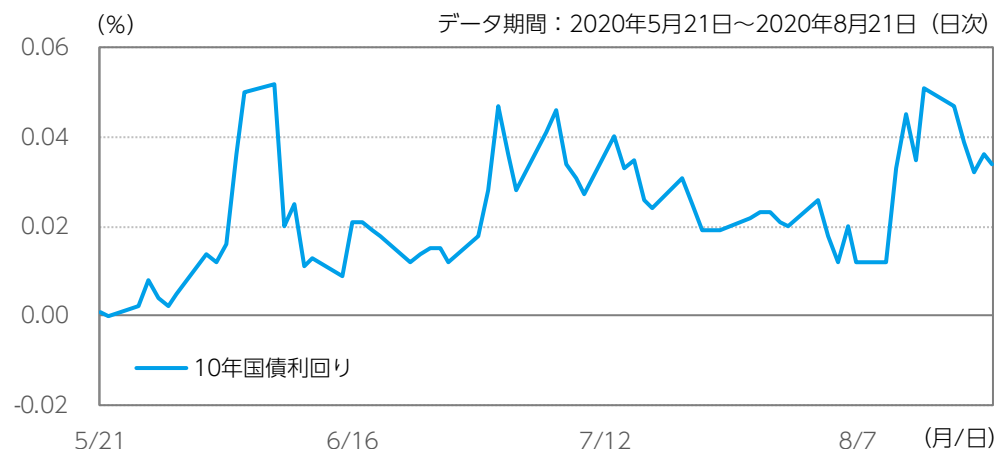
4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米国の景気回復の鈍さが意識されたことで米長期金利が低下し、日米金利差が縮小したことや、米中対立の激化懸念などを背景とした投資家のリスク回避姿勢の強まりなどから、円買い米ドル売りが優勢となりました。



≪ 債券 ≫

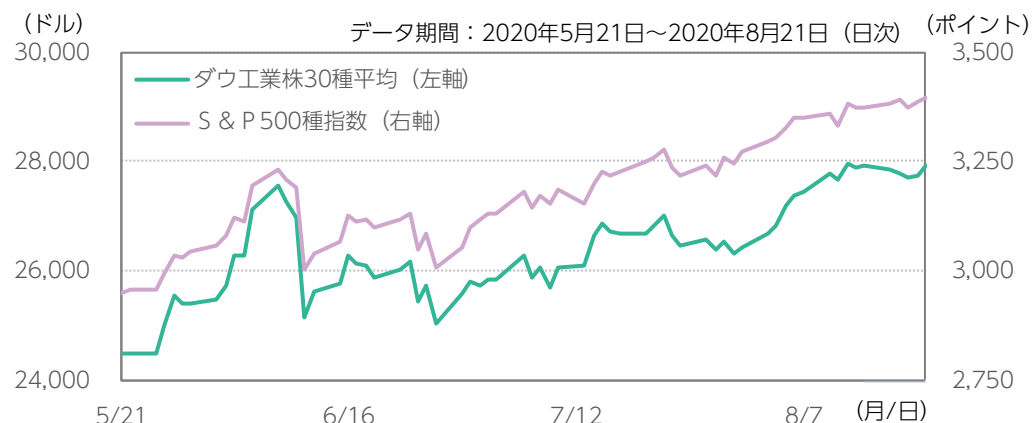
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。日経平均株価の下落を受け、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、相対的に安全資産とされる債券は買いが優勢となりました（利回りは低下）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は前週末比で横ばいとなりました。米国議会で調整が難航している追加経済対策が合意に至る可能性が報じられ上昇したものの、米中対立の激化による景気悪化懸念が下押し要因となり、週間では横ばいとなりました。



5) 今週の見通しについて

新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞を背景に、国内の2020年4～6月期の実質国内総生産(GDP)成長率が戦後最大の落ち込みとなり、景気の先行き不透明感が高まったことなどから、先週の国内株式市場は前週末比で下落となりました。

国内における感染者数は6万人を超え、増加ペースは拡大しています。また、8月以降、重症者数が増加傾向にあることから、国内の感染の動向については引き続き注視していく必要があるようです。

米国の企業決算は概ね好調であり、足元公表された経済指標にも改善がみられます。しかし、米議会で追加経済対策の調整が難航していることや、足元の米中関係の悪化などにより、予定されている米中貿易協議の開催が延期されていることなどが引き続き不安材料となり、今週の米国株式市場は上値の重い展開になるものと予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>